

力強い和太鼓の音色と  
ラッセーラ再興へ



手九野太鼓代表  
柿崎映児さん

伝統の音とアップテンポを合わせた迫力ある太鼓パフォーマンス。天狗みこしの先導を担う手九野太鼓は、1994年に9人の叩き手で結成しました。

「ラッセーラ」は先代で柿崎さんの父伸明さんが、青森県のねぶた祭の踊りと、徳島県の阿波踊りのかねや太鼓を元に振り付けました。

柿崎さんが代表になると、和太鼓の技術や曲づくりを基礎から学び、楽曲を増やしてきました。「感性を乗せて心地良さを届けたい」。沼田まつり2日目（4日）夜の和太鼓パフォーマンスも恒例で、市内のさまざまなイベントでの活動にも力を入れています。

今年天狗みこし渡御の発着が、旧市役所から変更。「ラッセーラ」はあの場所から始まった。前回のフィナーレは感慨深かった」と振り返り、「心新たに和太鼓で祭りを盛り上げたい」と力を込めます。手九野太鼓は随時メンバーを募集しています。



天狗みこしは21年ぶりに海外へ進出。「まつりインハワイ」では、パレードのトリを務めた（右）天狗山車太鼓もみこし渡御先導役を担い、祭りの1カ月前から柿崎さんが指導に当たっている（左）

最も盛り上がるフィナーレで、要所要所に打ち込む手九野太鼓（右）と、担ぎ手以外も結集し、踊って跳ねて躍動する大勢の人たち（左）



華麗な踊りで観客魅了

扇を持ち、和とジャズを融合させた線の美しい動きや、空手の型を取り入れた切れのよい踊り。天狗みこしの前で、和太鼓に合わせて踊り続ける「舞華」は、本市出身の学生が上京し、大学のダンスサークルでのスキルを生かして1998年に結成しました。現在、中学生から20代まで約20人が所属しています。

金子望愛さんは、中学1年生のときに舞華に加入。変わることにない振り付けにも、真摯に向き合い精度を上げ、今では指導もしています。

「沼田まつりでは4年前に劣らない踊りを披露し、見る人たちに楽しんでもらいたい」と期待をふくらませます。

地元を離れても所属し続ける人が多く、「体験したい」と声を掛けられることも増えているといいます。「舞華はたくさんの人に愛されている。ありがたい」と笑顔をのぞかせます。



舞華代表  
金子望愛さん